

視覚障がいのある人……▶

視覚障がいのある人を支援するとき

▶ 普段から気をつけること

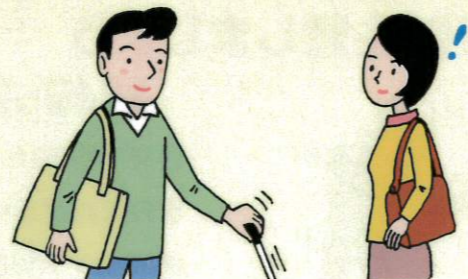
白杖などは決まった場所に

杖や点字盤などの必需品は、すぐに持ち出せるように、決まった場所に置きましょう。予備のものを非常持出品に加えておくことも大切です。



外出するときは必ず白杖を

ちょっとした外出をするときにも白杖は持って行くようにしましょう。いざというとき、周囲が気づきやすく、支援を求めやすくなります。



▶ 災害時に気をつけること

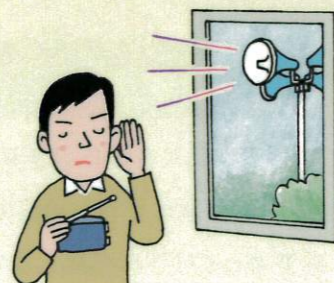
すぐに動かない

倒れた家具や割れたガラスの破片などでけがをする危険があります。緊急時はスリッパなどを履き、室内でも白杖を使いましょう。



情報を集める

ラジオなどで情報を集めて状況を確認しましょう。市区町村の防災無線から流れる避難情報などは聞き逃さないようにしましょう。



一人で避難しない

すべての障がいのある人に共通することですが、災害時の屋外は危険です。なるべく家族や支援者といっしょに避難しましょう。



視覚障がいの特徴

視覚障がいは「全く見えない」「ぼやけて見える」「中心または周りが見えない」など、さまざまな程度があります。視覚から情報を得ることが困難なため、音声（聴覚）や手で触れること（触覚）などで情報を入手します。また、白杖を持っていたり、盲導犬を連れていたりするなど一見してわかる人もいますが、わかりにくい人もいます。

支援者がサポートするときのポイント

まずはこちらから声をかけましょう

視覚障がいのある人は、困っていても周囲の様子がみえず、助けを求めにくい状況にあります。まずはこちらから「お手伝いしましょうか」などと声をかけましょう。



自分が半歩前を歩いて誘導しましょう

道路の安全な側に立ってもらい、ひじや肩のあたりをつかんでもらいましょう。半歩前を歩くようにして誘導します。歩く速さは、障がいのある人のペースに合わせるようにしましょう。



つねに話しかけながら誘導しましょう

無言で誘導するのではなく、周囲の状況や次の行動を口頭で説明しながら歩き、障がいのある人の不安や恐怖心を軽くしましょう。方位や位置は、時計の文字盤にたとえて説明するとわかりやすいでしょう。



盲導犬の邪魔になることはやめましょう

盲導犬（白または黄色のハーネス<胸輪>をつけています）を連れている人をサポートするときは、勝手に手に盲導犬を直接引いたり、さわったりしてはいけません。障がいのある人の希望する支援方法を聞いて対応しましょう。

